公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2019年
4月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆**探鳥会訪問記**・・・・・・・・・・・・・・・1
・特集・初心者向けバードウォッチング
（埼玉、栃木県支部、岡山県支部、島根県支部）
◆**探鳥会保険集計結果**・・・・・・・・・・・12
（2019年2月分）
◆**普及室からのお知らせ**・・・・・・・・・・14
・「ツバメのねぐら入り観察会」実施概要をお送りください
・2019年度「野鳥の子育て応援（ヒナを拾わないで）キャンペーン」始まりました
・新小冊子『なぜカルガモは引っ越しするの？～鳥のふしぎ相談室～』を発行します
・連携団体（支部等）向け卸販売について
◆**今月の購読者数**・・・・・・・・・・・・・・17
◆**探鳥会スタッフ通信の無料配信について**・18
◆**編集後記**・・・・・・・・・・・・・・・・・18

◆探鳥会訪問記

■特集・初心者向けバードウォッチング■

今月号では、以下の６回の「初心者向けバードウォッチング」（表１）について紹介します。

表１.

実施日		支部	実施場所	
2019年1月27日	（日）	埼玉	秩父郡 長瀞町	長瀞町・荒川
2019年2月2日	（土）	栃木県支部	小山市	小山運動公園
2019年2月3日	（日）	埼玉	志木市	柳瀬川
		埼玉	北本市	北本自然観察園
2019年2月10日	（日）	岡山県支部	岡山市 中区	龍ノ口 グリーンシャワーの森
		島根県支部	松江市	松江イングリッシュ ガーデン

初心者向けバードウォッチング 長瀞（埼玉）

【日時】2019年１月27日（日）９時40分～12時30分
【場所】長瀞（埼玉県長瀞町）
【天候】晴れ

【「初心者向けバードウォッチング」参加者】23 名（うち一般参加者 20 名）
【リーダー】５名、財団職員 1 名
【広報】
＜インターネット＞支部 HP／Facebook／twitter、財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（1 月初旬、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（12 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

■観光地「長瀞」での観察会

朝早くから、軽登山やハイキング姿の人がたくさん駅の改札から出てきます。

長瀞周辺には、ハイキングのコースがたくさんあるようです。

長瀞は、なんといってもライン下り。有名な観光地です。

さて、有名な観光地での、初心者向けバードウォッチングは、どうだったのでしょうか？

■埼玉の初心者向けバードウォッチングは、定例の探鳥会と並行して開催

集合場所の駅前には、時間になると続々と参加者が集まってきました。埼玉の初心向けバードウォッチングの多くは、定例探鳥会と並行して開催されます。受付は、定例探鳥会参加者と同時に行い、その後、定例と初心者向けに分かれての観察となります。

挨拶とコース説明、観察できる野鳥の話と注意事項の説明が終わると、トイレタイムが取られます。

全員が戻ると、いよいよスタートとなります。

■まずはやっぱり、長瀞なので・・・

駅を出て、河原に向かう途中は、昔ながらの観光地。50 代の私は、何か懐かしい気持ちになります。

参加者の期待を裏切らず、長瀞なので、まずは河原でウォッチングです。

ゆったりと流れる水面には、数種類のカモたちが浮かんでいます。岩の上には、羽を干しているカワウが。

その後、川からはちょっと離れ、川と並行している道を歩きながら、道路周辺の林や畑にいるジョウビタキやシメ、ホオジロなどの小鳥類を観察。そして、締めは幅２メートルほどの細い橋の上から、河原の鳥たちの観察です。

キセキレイやセグロセキレイ、カワラヒワやシメなどを観察しました。

残念ながら、カワガラスには会えず。特にヤマセミは、10 年くらい姿が見えない状況とのことです。

アウトドアブームにより、カヌー等も含めた川遊びが増えたことや餌の減少等が影響しているのではないかと説明がありました。

■強風と寒さ！

探鳥会の大敵は、雨、雷、暑さに加えて、強風と寒さ。

今回は、この強風と寒さにやられました。本来であれば、もう少しのんびりと観察できたはずですが、参加者の体調を考え、早めの移動となりました。橋の上からの観察も、強風と寒さで、それどころではない感じでした。

特に初心者向けのバードウォッチングでは、強風と寒さは、考慮しないといけないポイントとなりそうです。

▲観察の様子

■観光地での探鳥会の一つの課題

参加者数は 23 名でしたが、このうち 14 名は、県外からの参加者でした。

「初心者向けバードウォッチング」の目的は、まだバードウォッチングをしことのない人や、初心者にバードウォッチングの機会を提供すること、そして、「赤い鳥会員（支部型）」会員になってもらうことです。

観光地での開催は、県外からの参加者が多い傾向にあるようで、会員になってもらうという目的からするとやや異なる層が参加されるようです。これは、栃木県支部の奥日光の観察会でも、同様の傾向がありました。次に紹介する参加者３名も、県外からの参加でした。

ただ、県外他県からの参加者も、日本野鳥の

会全体で見れば、貴重なお客様であることは間違いありません。
　今後、県外他県から参加する方を、どのように考えるのか、支部・連携団体と財団が、「連携」して議論検討できればと思います。

■参加の声

・50 代男性：栃木県の佐野から来ました。以前から自宅の近くの鳥たちが気になっていて、2 種間くらい前に調べて、参加しました。遠いのですが、長瀞は祖父祖母の家があり、子どものころよく来ていたので・・・。

・30 代女性：千葉県の流山からの参加です。長瀞という場所なので、なんだか野鳥たちがたくさん見られるような気がして、ちょっと遠いけどやってきました。終わった後は、ちょっと観光してから帰ります！

・60 代女性：東京の目黒からやってきました。まだ会員にはなっていませんが、いろいろな初心者向けバードウォッチングに参加させてもらっています。

（普及室／富岡辰先）

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性9 名 女性14 名	9 歳以下2 名 10 代 0 名 20 代 0 名 30 代 2 名 40 代 4 名 50 代 9 名 60 代 5 名 70 歳以上 0 名	探鳥会のご案内9 名 メール7 名 新聞3 名 支部 HP 2 名 財団 HP 2 名 家族・友人の紹介1 名 Facebook1 名 その他　3 名	一般20 名 会員2 名 不明 1 名	今回初めて8 名 2～4 回 9 名 5～9 回 2 名 10 回以上 3 名 未記入1 名	埼玉県9 名 東京都9 名 茨城県2 名 千葉県1 名 栃木県1 名 神奈川県1 名

小山運動公園　ビギナー探鳥会（栃木県支部）

【日程】2019 年 2 月 2 日（土）9 時 00 分～11 時 00 分
【場所】小山運動公園（栃木県小山市）
【天候】晴れ
【参加者】25 名（うち一般参加者 17 名）
【リーダー】8 名、財団職員 1 名
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（1 月初旬、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（12 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

場所の概要等は、「探鳥会スタッフ通信 2017 年 3 月号」をご覧ください。
http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201703.pdf

■ベビーカーと「抱っこひも」の参加者が…

　これまでたくさんの初心者向けバードウォッチングに参加してきましたが、ベビーカー（1 歳数か月）と「抱っこひも（1 歳）」の親子の参加に出くわすのは初めてでした。2 組とも、事前に支部へ連絡し、OK をもらっての参加とのことでした。
　「抱っこひも」の親子は、宇都宮の探鳥会にも参加されたようで、慣れた感じでした。双眼鏡をお貸ししようと声をかけたところ、
「子どもの頭にぶつかっちゃうので、望遠鏡を覗かせてもらいます」
とのお返事でした。
　ベビーカー親子は、お子さん、お父さん、お母さんでの参加。こちらは初めての参加でした。運動公園ということで、歩道は整備されていて、ベビーカーも問題なし。途中、芝生に入るときには、リーダーがお手伝いしました。
　後半、ベビーカー親子のお子さんが、ちょっとぐずり、グループからちょっと離れたところをお父さんと歩いていました。
　参加者 25 人の中で、2 組だったこともあり迷惑にもならず、小さなお子さんを連れた親子の参加は、全体的に良いムードを醸して出して

いました。
　お母さんたちも、子育ての合間に、バードウォッチングができて、とてもよかったとおっしゃっていました。
　子ども連れだと、足手まといになったり、子どもが泣いて迷惑をかけてしまうかもしれない等、遠慮して参加されない方もいるようですが、子育て中に気がねなく参加できる探鳥会があっても良いかなと思いました。
　ただ、栃木県支部の過去の例では、親子連れがたくさん参加してしまい、子どもが騒いで、探鳥会が成り立たなかったこともあったようです。班分けや親子限定の探鳥会等も必要なのかも知れません。

▲観察の様子

　身障者や親子連れ、社会的弱者が参加できる探鳥会という、また新たな課題が出てきました。
　２月23日には、埼玉で親子限定の初心者向けバードウォッチングが開催されますので、またレポートします。

■白内障と網膜剥離の手術後の参加者

　もうひとつ初めての経験だったのは、白内障と網膜剥離の手術後に参加されたご主人と、その奥様でした。
　受付後、双眼鏡をお貸したのですが、しばらくたつと「やっぱりお返しします」と戻ってきました。事情をお聞きすると、手術後、外も歩けるし、それなりに目も使うので、リハビリにやってきましたとのこと。ただ、サングラスをしていても、双眼鏡を覗くと、明るくなり過ぎ、目がきついとのお話でした。
　双眼鏡無しでは、楽しめないかなと思っていたところ、奥様と一緒に
「あそこにいるの見えないの？」
「見えないよ。どこだ。あっ、居た！」
と、それなりに楽しんでもらえたようです。
　読者の皆さんの中で、目の手術後のバードウォッチングや双眼鏡の使い心地について経験した方が居れば、お話を伺いたいです。ご連絡、お待ちしています。

（普及室／富岡辰先）

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性9名 女性8名	9歳以下2名 10代0名 20代1名 30代3名 40代3名 50代3名 60代4名 70歳以上1名	探鳥会のご案内4名 家族・友人の紹介6名 支部HP4名 財団HP4名	一般17名 会員0名	今回初めて6名 2～4回 10名 5～9回 0名 10回以上 0名 未記入1名	小山市9名 日光市1名 大田原市1名 真岡市1名 佐野市1名 埼玉県2名 茨城県2名

初心者向けバードウォッチング　北本自然観察園（埼玉）

【日時】2019年２月３日（日）９時00分～12時30分
【場所】北本自然観察公園（埼玉県北本市）
【天候】晴れ
【「初心者向けバードウォッチング」参加者】30名（うち一般参加者30名）
【リーダー】４名、財団職員２名
【広報】
　＜インターネット＞支部HP／Facebook／twitter、財団HP／Facebook／twitter

＜メール＞一斉メール送信（1 月初旬、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（12 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

■野鳥の密度と近さが魅力

北本自然観察公園は、過去農業試験場だった場所で、雑木林、湿地、池と現在も里山の風景が残っています。

JR 北本駅から、バスで約 15 分。近くに大きな病院があるため、10 分～15 分に 1 本と、バスの便も良く、バードウォッチングには最適な場所です。

魅力は、野鳥の密度と近さ。アオジやシメが足元で餌を採り、じっとしていればぜんぜん逃げません。時々クイナも顔を出してくれました。もちろん、カワセミもばっちりです。鳥との距離が近く、双眼鏡でしっかりと観察できるので、参加者の満足度も上がります。

北本自然観察公園のことは、昔からよく聞いてはいたのですが、今回が初めての訪問でした。なぜ、もっと早く行かなかったのかと、ちょっと後悔しています。

■配布資料が足りなくなるハプニングが！

この日の埼玉の初心者向けのバードウォッチングは、実は２ヶ所同時開催。担当者Ｉさんは気合が入っているな、と思っていたら、ちょっとした日程調整のミスが起こったとのこと。

ということで、今回は、若手リーダーH さんが担当となりました。

配布資料をたくさん用意して待機していると、交通の便が良いからか、こちらの想像を超える人数の参加者が集まってきました。準備した双眼鏡も、ほぼ全部貸し出しの状態。そして、配布資料が足りなくなるというハプニングからのスタートでした。

■道が狭く、一般の方の迷惑になる場面も

資料配布と双眼鏡の貸し出し後、挨拶、リーダー紹介に続いて、コースの説明と注意事項を伝え、トイレ休憩をとった後に出発。木道やあぜ道のような場所を歩きながらの観察でした。来園している一般の方も多く、30 名を超える団体の脇を通ることに躊躇する方もいました。場所にもよりますが、解説の担当リーダーの他に、交通整理や完全管理等を行うマネジメント担当のリーダーの必要性を感じました。

■めでたく３名の方が正入会！

観察の後は、学習センターの部屋で、鳥合わせ等を行いました。

部屋の中でのまとめの時間は、ゆったりと落ち着いてできるので、参加者の皆さんの意識が、リーダーの説明に集中するメリットがあります。

鳥合わせの後、双眼鏡の説明や、活動の紹介、そして入会のお願い。

１月より、財団の職員がうかがう観察会では、赤い鳥会員の入会をその場で受付できるような仕組みを試験的に導入しました。

若手リーダーH さんの、強すぎず弱すぎず、でも入会して欲しいという心のこもったお願いが功を奏したか、２名の方にその場で入会していただけました。そして、さらに数日後もう１名が！

入会のお願いをすること、そして、その場で入会できることのメリットが、良く分かった観察会でした。

▲屋内でおこなった探鳥会のまとめ

■参加者の声

- 70 代女性：絵を描くのが趣味なので、農業試験場のころから良く通っています。鳥たちがたくさんいるけど、なんという鳥か分からないので、分かるようになると、もっと楽しくなるなと思い参加しました。
- 60 代ご夫婦：昔、ちょっとバードウォッチングをしてましたが、大病にかかり、久しぶりに参加しました。とても楽しく、身体にも良さそうなので、またはじめようと思い参加しました。ほんとに楽しいですね。（この方は、その場で入会してくださいました）

（普及室／富岡辰先）

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性15名 女性14名 不明１名	９歳以下０名 10代１名 20代１名 30代２名 40代５名 50代６名 60代12 名 70歳以上３名	探鳥会のご案内11名 支部HP９名 メール3名 Facebook3名 その他 3　名 財団HP２名 家族・友人の紹介1名	一般30名 会員0名	今回初めて12名 2～4回 14名 5～9回１名 10回以上３名	伊奈町5名 ふじみ野市3名 桶川市3名 久喜市2名 鴻巣市2名 上尾市2名 小川町2名 北本市2名 蕨市2名 その他埼玉県5名 東京都2名

初心者向けバードウォッチング　柳瀬川（埼玉）

【日程】2019年２月３日（日）９時00分～12時30分
【場所】柳瀬川 （埼玉県志木市）
【天候】晴れ
【参加者】25名（うち一般参加者24名）
【リーダー】３名、広報１名、財団職員１名
【広報】
＜インターネット＞支部HP／Facebook／twitter、財団HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（1月初旬、全国約60,000名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（12月初旬から全国約65,000名に送付）

■探鳥会の様子

天気は快晴。風も少なく気温は10度前後の予報。絶好のお出かけ日和でした。

北本自然観察公園の初心者向けバードウォッチングと同日開催のため、参加者の分散が予想されましたが予想を上回る24名の参加者が訪れました。

今回の観察場所は、柳瀬川の土手と近隣の田園です。市街地でありながら、アユも遡上するきれいな河川に住む鳥たちを探します。当日は、行われていた土手工事のため、鳥が出ない可能性を懸念し工事現場を避けるコースを出発前に打ち合わせました。また、ビギナー探鳥会ということでわかりにくい藪の中の鳥や遠くの飛んでいる鳥は追わず、比較的動き回らず観察のし易いカモやサギ類を主に観る、ということをリーダー同士で確認し合っていました。

他団体主催の野鳥観察会が偶然、同時刻同集合場所であった為参加希望者が混ざりそうになりました。しかしお互い存在を把握していたので、集合場所を変更し声を掛け合い、参加者が間違わないよう注意を払いました。

■探鳥会の様子

集合場所には続々と参加希望者が訪れ、ほとんどが集合時間内に集まりました。まず、参加者に名簿記入をしてもらい、全員の記入が終わったら双眼鏡の貸し出し、貸し出しが終わったら資料の配布…と、スムーズに受付を進めていきました。一斉に集まった方も一列に並んでいただき、焦らず順番に対応しました。

探鳥会の説明10分～15分程度の中で本日見られる鳥やコースの案内、探鳥会のマナーから注意事項を説明しました。集合場所が円形スペースになっておりそのスペース内で集まっていたので自然に参加者全員がリーダーの傍まで寄って集まり、距離感が近くて良いと思いました。

集合場所では、真上の木にとまっていたシジュウカラやカワラヒワが鳴き、スズメやメジロもやってきました。さっそく近くで鳥を観察できる良いスタートをきることができました。参加者のすぐ近くで長い間留まって姿を見せてくれたので、さっそく鳥を見るという意欲を満たしてくれるようなサービス精神に我々も気持ちがほっこり。

駅前の住宅地でしたので、ここで双眼鏡を覗

き込むのは近隣住民に不快感を与えかねる為、その旨を説明し、すこし歩いた先の川の土手で初めて双眼鏡の使い方を説明しました。

土手に着いたら、カワウやサギ、ヒドリガモがすでに泳いでいました。ダイサギとコサギが仲良く並んでたたずんでくれました。カモはオスとメスが混在していたので双眼鏡を初めて使った方も、使い方を教わりながら余裕をもって観察、識別のコツ知ることができました。

天気に恵まれ、陽の光がまんべんなくさしこむ今日のヒドリガモは、羽根が綺麗に輝きオスとメスの違いが非常にわかりやすかったです。

■団体の方から先に道を譲る

お散歩日よりなので通行人も日ごろより多かったと思います。自転車やランナーは頻繁に通り、野鳥観察に夢中になればなるほど、何度も道を空けるたびに避け方がすこしずつ雑になってしまいます。そして背中にリュックなどを背負っていると、自分が思ったより道が空けられていないこともあります。

観察の最中でも、足を停め、リーダーから「我々が団体である」ということを何度も説明し、道を空けるのは団体がまず先にするという重要さを、しっかり伝えていました。

最後の鳥合わせでは 24 種の鳥を確認しました。この辺りに詳しい地元リーダーにイワツバメの古巣も教えていただきました。ほとんどの方に楽しんでいただけた様子で、色々な鳥を観察しているうちに、あっという時間が過ぎていました。近くのホームセンターでトイレ休憩をしたのち会の案内やまとめの話をして、お約束の時間ぴったりに終了し、双眼鏡を回収しました。

▲いい天気！

■参加者の声

・独断で購入した双眼鏡をもってきたが、今回貸し出し用のモナーク７を使い見比べた男性：
「見え味の違いに驚きました。そして、双眼鏡の使い方がよくわかりました。いままで双眼鏡で目当ての鳥を入れることができず見失ってしまう悩みを持っていましたが、肉眼で居場所を確認してから双眼鏡をあてがうと簡単に入れることができました。これで次から観察できます。」

・柳瀬川に初めて来ました！という女性：探鳥会案内をご覧いただき横浜からいらしたそうです。
「探鳥会に参加したことはあったが、ビギナー探鳥会とは知らずに参加した。とても楽しめた、また参加したい。」

■リーダーの工夫

埼玉では、「連携団体（支部等）向け卸販売」を利用されています（この仕組みの詳細は、今月号の「普及室からのお知らせ」をご覧ください）。今後はこの仕組みを使って、支部オリジナルのセット販売もしてみたいとのことです。

財団職員不在でも、スムーズに正式入会ができる機会を作り、これからも本部と支部が良い連携をとれるように物販や入会案内はしっかり工夫したい、ということでした。

（普及室／森谷机珠瑶）

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性10名 女性13名 不明２名	９歳以下４名 10代０名 20代０名 30代４名 40代４名 50代４名 60代７名 70歳以上２名	支部HP７名 探鳥会のご案内６名 家族・友人の紹介５名 市内掲示板４名 財団HP３名 メール2名 その他2名	一般24名 会員１名	今回初めて12名 2～4回７名 5～9回２名 10回以上３名 未記入１名	志木市７名 朝霞市７名 新座市２名 日高市２名 その他埼玉県５名 神奈川県１名 東京都１名

松江イングリッシュガーデン探鳥会（島根県支部）

【日程】2019 年 2 月 10 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分
【場所】松江イングリッシュガーデン（島根県松江市）
【天候】曇り
【参加者】23 名（うち 18 名が一般参加者）
【リーダー】２名、松江イングリッシュガーデン職員２名、財団職員１名
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、支部報、財団 HP／Facebook／twitter、松江イングリッシュガーデン HP
＜メール＞一斉メール送信（1 月初旬、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（12 月初旬から全国約 65,000 名に送付）、松江イングリッシュガーデン作成のチラシ
＜新聞・広報誌＞松江市報、山陰中央新聞

■探鳥会の概要

「松江イングリッシュガーデン」は、宍道湖の北東部の湖岸に立地する英国式庭園です。園内からは、広大な宍道湖が一望できます。この探鳥会は、支部と施設との共催事業として数年来開催されています。

施設からの広報の効果もあり、会員以外の方の参加も多いため、今年から初心者向けのバードウォッチングとして財団発行の「探鳥会のご案内」にも掲載することとなりました。島根県支部では、現在、初心者向けの取組みを強化していこうという動きがあるとのことで、「お試し入会制度」（500 円で半年間の支部報の送付）も新設されました。制度導入後、はじめての探鳥会となりました。

■探鳥会の様子

はじめに、施設内のレクチャールームでスタッフ紹介、支部の紹介、双眼鏡の使い方の説明がありました。スタッフ紹介の際、支部の小学生会員が「特別講師」として紹介されました。双眼鏡の説明のときには、「特別講師」が大活躍していました。

その後、屋外へ出て観察の時間になりました。宍道湖が一望できる場所へ移動し、湖の鳥を観察しました。２月の宍道湖には、多くのカモが飛来します。この日は、キンクロハジロやホシハジロ、マガモなどが見られました。湖での観察中、オオタカがカモを襲うシーンが見られました。捕まえたカモを水の中に沈め、胸まで水の中に浸かってじっとしているオオタカを全員で観察することができました。思いがけないシーンを目撃したことに、参加者のみなさんはとても興奮している様子でした。

観察の間、さまざまなアイテムが活用されていました。例えば、水面採餌ガモと潜水採餌ガモの違いを示したパネル、鳥のイラストが大きく描かれている「フィールドガイド日本の野鳥」拡大蔵書版、鳥のしぐさをマス目にいれた「野鳥ビンゴシート」などです。それらを駆使したリーダーの解説がとても分かりやすく、ときには、冗談交じりの解説に笑いが起き、終始とてもわきあいあいとした雰囲気で探鳥会が進みました。

観察の後は、庭園が見渡せるカフェスペースで、コーヒーを飲みながら、リーダーの鳥のお話を聞きました。庭の植物にちなんで、鳥に運ばれる植物の種の話など、リーダーと参加者がやり取りしながら話がすすみました。途中、窓際の木にジョウビタキがとまり、室内からもバードウォッチングを楽しみました。

その後、レクチャールームへ戻り、鳥あわせをしました。観察の間中、記録係を務めていた小学生の特別講師が前に立ち、和やかな雰囲気のなか、その日に見られた鳥をおさらいしました。

最後に「お試し入会」を呼びかけたところ、多くの入会希望者が集まり、未入会の参加者の約半分にあたる 8 名の方がお試し入会される、という結果になりました。

■参加者の声

- 60 代女性：たくさんの鳥が見られ、また丁寧に解説していただき、すっかり鳥が好きになりました。
- 70 代女性：バードウォッチングに興味はあるけれど、車の運転ができません。今回のように、交通の便の良いところで開催されるのは嬉しい。

▲宍道湖の水鳥を丁寧に解説。

■まとめ

宍道湖のさまざまな水鳥、オオタカの採餌シーンなど、見どころの多い観察会となりました。リーダーの解説が丁寧でわかりやすく、参加者の様子からは、この時間を楽しんでいることが伝わってきました。最初と最後に、室内で座ってゆっくりお話が聞ける時間があったのも、参加者にはうれしい配慮です。

「このような会であれば、ぜひまた来たい」「インターネットが使えないので、支部報で探鳥会の日程が送られてくるのはありがたい」「今日は楽しかった。500 円で支部報が送られてくるなら、欲しい」などの意見が聞かれ、初の試みとなった「お試し入会制度」も好評でした。参加者の心をがっちりつかんだ探鳥会となりました。

（普及室／江面康子）

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性9 名 女性16 名	9 歳以下0 名 10 代 1 名 20 代 1 名 30 代 3 名 40 代 2 名 50 代 4 名 60 代 6 名 70 歳以上 7 名 未記入1 名	支部 HP 5 名 探鳥会のご案内4 名 財団 HP 3 名 支部報3 名 家族・友人の紹介2 名 市報2 名 新聞1 名 Facebook1 名 その他3 名	一般19 名 会員6 名	今回初めて14 名 2～4 回 9 名 5～9 回 0 名 10 回以上 0 名 未記入2 名	松江市14 名 出雲市8 名 鳥取県境港市2 名

冬鳥を観察します（岡山県支部）

【日程】2019 年 2 月 10 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
【場所】龍ノログリーンシャワーの森（岡山県岡山市）
【天候】曇り
【参加者】33 名（うち一般参加者 23 名）
【リーダー】5 名、財団職員 2 名
【広報】
＜インターネット＞支部 HP／Facebook、財団 HP／Facebook／twitter
＜メール＞一斉メール送信（1 月初旬、全国約 60,000 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（12 月初旬から全国約 65,000 名に送付）

■探鳥会の概要

龍ノログリーンシャワーの森は、地元の人なら誰でも知っている市民のハイキングコースとして有名なスポットです。文字通り緑のシャワーを浴びるかのような豊かな緑地が広がっており、近い距離で野鳥観察を楽しめます。

日ごろからグリーンシャワーの森で利用している探鳥会のコースが、工事で立ち入り禁止になっていました。しかしこの日は工事をしていなかったので、一般人が立ち入り禁止の表記を無視してどんどん入っていました。では我々も、とはならず、急遽帰り道として設けていた

別の道を往復するというコースに変更しました。

■探鳥会の様子

この日は準定例探鳥会ですが内容は初心者向けバードウォッチングとして開催し、当日は会員と初心者が入り混じる空間でした。初心者の方もベテランの方も隔たりなくわきあいあいとした雰囲気で、各々声を掛け合い鳥好き同士の交流を楽しみました。

集合場所である駐車場は、時間が経つにつれ、参加者の車と一般利用者の車で満車に近い状態になりました。30 名以上いる参加者やスタッフはすぐに駐車場外の向かい側にある広場に場所を移しました。

さっそく本日のスタッフの紹介、会の活動紹介、そして探鳥会で見られる鳥やコースの説明をしたあと双眼鏡の使い方を簡単に紹介しました。初めて双眼鏡を使う方は見当たりませんでしたが、ベテランの方や気配りをするスタッフがひとりひとりに積極的に声を掛け確認やフォローをしていました。

集合場所ではエナガやトビ、地面にはシメやアオジがいましたので、出発する前に双眼鏡の使い方のおさらいを兼ねてじっくり観察しました。

出発したあとは、ゆっくり歩いてすぐ水路沿いに出てゆっくり進みました。その日はジョウビタキが何羽もつがいで現われ、スズメやヒヨドリも群れで飛び、大変賑わいました。

鳥は遠くから双眼鏡で観察していてもあっというまに去ってしまいます。しかし、鳥のすぐそばを、通りがかりの一般人が近づいても、気にも留めない様子でした。鳥たちのほうがヒトをよく観察していることがわかりました。

ちょうどコシアカツバメの古巣が立ち並ぶ建物の近くを通ったので各リーダーが解説をしました。たまたま古巣を他の鳥が活用するという話を始めたとたん、スズメが何羽も古巣に入っていく場面に遭遇しました。まるでスズメが一緒になって解説してくれているようでした。

川や畑でカモや小鳥を観察し、グリーンシャワーの森内でＵターンしました。

その後鳥合わせをし、ひとり以上確認した鳥をカウントし、33 種でした。

▲集合場所の様子

■参加者の声

・高校の先生が参加

以前横浜自然観察に何度か訪れたことのある高校の先生が生徒さんと参加されていました。岡山の進学校へ転勤し、支部長と逢い、共に探鳥会を企画しクラスで探鳥会をしたところ成功。その後も何度か探鳥会に参加するようになったそうです。

今日は 3 人の生徒を引き連れて参加されました。この日は地図に、どこでどんな鳥を見つけたか詳しく記入し、なにかわかったことを後日提出するように、という課題付きでした。生徒たちは熱心に鳥が出た箇所と種類を地図に記して歩いていました。続けると良い発見がありそうですね。

先生は主にフィールドに興味があり、熱心にリーダーのすぐ傍で耳を傾けていました。

・東京都内から最近岡山市に越された一般女性の方

もともと野鳥に関心があり、以前は東京港野鳥公園や谷津干潟を個人的に訪れていたが、なかなか野鳥の名前を覚えることができなかったため、探鳥会に参加することにしたとのこと。探鳥会の経験はほとんどなく、岡山に来てからは初めての参加だったそうです。「探鳥会はリーダーが鳥の名前をすぐに教えてくれるので、すぐに図鑑と照らし合わすことができ、個人差はありますが早く覚えることができます。まだ不慣れな土地だが、また来て新しい土地での交流なども楽しみたい。」とのことでした。

■まとめ

岡山市内から参加した子どもが薄着で寒そうにしていました。場所がハイキングコースだったため、どうやら登山を想像して薄着で来てしまったようです。この日は雪がちらつくほど寒く、歩くペースも想像以上にゆっくりです。体が温まるような場面はあまりありませんの

で、薄着だと芯から冷え切ってしまいます。
　初心者の方には、暖かい格好をしてくるよう念を押して呼びかける必要があることがわかりました。

（普及室／森谷机珠瑶）

▲リーダーのひとりが手作りマグネットを作って参加者全員にプレゼントしていました。とってもかわいい。

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性8名 女性11名 不明1名	9歳以下2名 10代4名 20代0名 30代2名 40代6名 50代3名 60代2名 70歳以上1名	支部HP8名 先生の紹介6名 探鳥会のご案内2名 メール2名 財団HP2名	一般20名 会員0名	今回初めて8名 2~4回5名 5~9回1名 10回以上4名 未記入2名	岡山市10名 倉敷市2名 総社市2名 兵庫県姫路市5名 広島県広島市1名

◆探鳥会保険集計結果（2019 年 2 月分）

2 月は 70 支部からご報告をいただき、計 296 回の探鳥会が開催され、のべ 7,648 人が参加されました。

表 2. 2 月の探鳥会保険集計結果（2018 年 3 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	1	18	9	1	28
根室支部	2	7	13	4	24
釧路支部	−	−	−	−	−
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	14	2	1	17
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	74	24	6	104
小樽支部	2	1	7	2	10
苫小牧支部	1	2	3	2	7
室蘭支部	1	16	9	3	28
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	9	9	3	21
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	14	0	2	16
秋田県支部	4	56	1	5	62
山形県支部	1	18	3	2	23
宮古支部	0	0	0	0	0
もりおか	1	17	5	4	26
北上支部	1	10	0	3	13
宮城県支部	4	66	20	10	96
ふくしま	2	57	0	3	60
郡山支部	4	62	0	10	72
白河支部	1	0	0	4	4
会津支部	1	4	1	1	6
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	19	0	1	20
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	9	82	67	11	160
栃木県支部	14	261	68	43	372
群馬	12	126	112	35	273
吾妻	1	24	1	2	27
埼玉	16	390	146	111	647
千葉県	11	158	33	46	237
東京	14	453	14	70	537
奥多摩支部	10	156	36	37	229
神奈川支部	14	233	83	54	370
新潟県	1	15	5	5	25
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	43	12	4	59
石川	2	39	10	5	54
福井県	2	13	55	10	78
長野支部	2	37	16	4	57
軽井沢支部	1	11	15	1	27
諏訪支部	1	8	6	2	16
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	1	35	1	2	38
富士山麓支部	1	7	2	2	11
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	-	-	-	-	-
南富士支部	2	120	7	3	130
南伊豆	2	10	6	4	20
静岡支部	1	7	5	3	15
遠江	3	56	55	11	122
愛知県支部	14	230	175	40	445
岐阜	-	-	-	-	-
三重	5	24	25	9	58
奈良支部	5	121	15	10	146
和歌山県支部	1	4	15	4	23
滋賀	7	66	64	14	144
京都支部	10	154	115	30	299
大阪支部	23	519	103	104	726
ひょうご	7	79	73	26	178
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	23	2	3	28
島根県支部	3	11	29	3	43
岡山県支部	4	81	50	14	145
広島県支部	6	68	32	10	110
山口県支部	5	29	9	5	43
香川県支部	3	105	39	4	148
徳島県支部	5	87	8	5	100
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	4	58	29	6	93
北九州支部	4	50	13	4	67
福岡支部	7	89	31	19	139
筑豊支部	5	100	9	5	114
筑後支部	3	22	2	6	30
佐賀県支部	3	61	20	4	85
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	75	44	13	132
大分県支部	1	24	6	2	32
宮崎県支部	4	60	23	4	87
鹿児島	3	43	36	10	89
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	1	1	1	1	3
全国	296	4,932	1,829	887	7,648

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■「ツバメのねぐら入り観察会」実施概要をお送りください■

2019 年度「ツバメのねぐら入り観察会」の実施概要を募集しております。

3 月 22 日付で支部事務局あてにご送付しました資料をご覧いただき、「ツバメのねぐら入り観察会」の広報を希望される支部のみなさまは、4 月 21 日（日）までに実施概要をお送りください。

■2019 年度「野鳥の子育て応援（ヒナを拾わないで）キャンペーン」始まりました■

野鳥の子育ての季節に、人によるヒナの誤った保護を防ぐために続けてきた当キャンペーン。今年で 25 回目を迎えますが、毎年問い合わせが途絶えることはありません。このキャンペーンが人と野生生物との関わりを考える機会になるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

＜ポスター掲示にご協力お願いします＞

（公財）日本鳥類保護連盟、NPO 法人野生動物救護獣医師会と共同でポスターを制作し、全国の幼稚園、学校、図書館などに掲示をお願いしています。4 月上旬に、支部宛てに 25 枚ずつお送りしましたので、皆様のお住まいの地域の掲示板や施設等で掲示にご協力いただける場所がありましたら、掲示をお願いいたします。ポスターの追加送付のご希望もお待ちしております。なお、ポスターは、当会ホームページからダウンロードもしていただけます。

＜紙芝居や小冊子をご活用ください＞

巣立ちビナは拾わずに見守ってほしいことを伝える紙芝居『わたしのことり』、地面にいるヒナへの対処方法を解説した小冊子『ヒナとの関わり方がわかるハンドブック』をご用意しています。野鳥の子育ての時期にぜひご活用ください。詳しくは、当会ホームページでご確認いただくか、右記までお問合せをお願いいたします。

＜お申込み・問い合わせ先＞

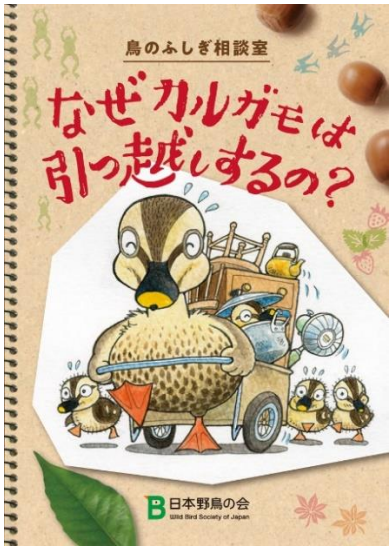
日本野鳥の会　普及室　　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23　丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：nature@wbsj.org
ホームページ：
日本野鳥の会　ヒナを拾わないで で検索

■新小冊子『なぜカルガモは引っ越しするの？～鳥のふしぎ相談室～』を発行します■

普及室では、バードウォッチングに興味を持つきっかけとなるような小冊子を制作しています。この度、新しい小冊子『なぜカルガモは引っ越しするの？～鳥のふしぎ相談室～』を発行しました。（4 月 9 日付けで、支部事務局宛に見本をお送りしています）この小冊子は、鳥にまつわる 10 のふしぎを Q&A 形式で紹介しています。

4 月 10 日以降、新聞等で広報してお申込みをいただいた方へ配布していく予定です。

小冊子プレゼントハガキもぜひご利用ください。



▲表紙

▲5-6 ページ

■連携団体（支部等）向け卸販売について■

「探鳥会で図鑑が買いたい」「野鳥グッズがほしい」など、探鳥会の参加者や会員の皆さんからのご要望はありませんか？

連携団体（支部等）向け卸販売は、当会通販カタログに掲載している商品を、卸価格にて連携団体へご提供するしくみです。

仕入れた商品を連携団体で販売することで、探鳥会の参加者が図鑑や双眼鏡などバードウォッチングに必要な道具を買えるようになり、サービスの向上につながります。さらに、売上は連携団体の収入になります。例えば、『新・山野の鳥 改訂版』の場合は、1 冊 130 円が、双眼鏡の場合は、500～15,000 円程度が連携団体の収入になります。

販売を通じてバードウォッチングの輪が広まるとともに、その販売収益が連携団体の活動の一助となれば幸いです。

▲連携団体での販売の様子（日本野鳥の会遠江の探鳥会にて）

●対象商品

原則、有効期限内の通販カタログ「バードショップ」に掲載している商品。過去のカタログ等に掲載された商品は対象外となりますのでご承知おきください。

●ご注文方法

・通販カタログ「バードショップ」等を発行する毎に、各連携団体販売事業ご担当者様宛に、財団事務局より販売のご案内をお送りしています。商品や注文方法の詳細は、各連携団体の販売事業ご担当者様にお問い合わせください。

・ご注文の際は、できる限り専用の注文用紙（財団事務局作成）をご利用ください。用紙をご希望の方、データでご入用の方は右記までお問い合わせください。

●連携団体向け卸販売についてお問い合わせ

普及室　販売出版グループ　支部卸担当までお願いいたします。

TEL：03-5436-2623
FAX：03-5436-2636
メール：r-hanbai@wbsj.org

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信４月号の電子メール版の購読者数は、先月と同じ845名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表３．探鳥会スタッフ通信４月号電子メール版の購読者数（2019年４月11日現在）

支部	購読者数
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	1
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	5
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	5
秋田県支部	4
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	6
郡山支部	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木県支部	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	39
千葉県	24
東京	68
奥多摩支部	48
神奈川支部	25
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	2
石川	29
福井県	11

支部	購読者数
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	7
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	10
愛知県支部	44
岐阜	6
三重	19
奈良支部	3
和歌山県支部	5
滋賀	20
京都支部	31
大阪支部	26
ひょうご	14
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	13
岡山県支部	28
広島県支部	9
山口県支部	16
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	5
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	13
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	845

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。
配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

渡ってくるツバメを探すのが楽しみな季節になりました。みなさまはいかがお過ごしですか？

年度の始めですので、普及室からいろいろなお知らせを掲載させていただきました。
そのうちのひとつ「ツバメのねぐら入り観察会」の実施概要の募集につきましては、締め切りが昨年よりも早い 4/21 となっております。提出をご検討されているみなさま、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今年度も「探鳥会スタッフ通信」をよろしくお願いいたします。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 73 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2019 年 4 月 15 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org